



薩英戦争秘話

< 3 >

鹿児島市維新ふるさと館

特別顧問 福田 賢治

【プロフィール】

昭和17年鹿児島市生まれ。
平成14年3月清水中学校校長を最後に定年退職。
同年4月維新ふるさと館歴史解説員、19年6月同館館長を
経て24年6月から特別顧問。

イギリスとの和睦交渉の立役者「重野厚之丞（安繹）」

薩英戦争後の和睦交渉の際、当時に、堂々と渡り合ったのが重野厚之丞（安繹）であった。重野は、江戸で造士館訓導師校舎方となるが、同志の金銭上のトラブルの責任を取らされたことから奄美大島へ遠島となり、西郷

態で、艦隊が再度来襲したならば敗北は明白であった。

が奄美大島（龍郷）に遠島になるや、たびたび西郷を訪ね懇談し、漢詩などを教えている。薩英戦争が始まる以前に許され御庭方として藩に復帰、江戸詰側用人岩下佐次右衛門（方平）の副役として終始和睦談判の先頭に立ち、正論をもって臨んだ。重野は後に東京帝国大学教授となり、東京大学に国史科を設け、貴族院議員や日本史学会の会長となった人物である。

一方、イギリス本国では、ニール代理公使やクーパー提督らに対し、鹿児島市民を巻き添えにした薩英戦争への批判が高まったこともあり、和睦せざるを得ない国内事情を抱えていた。

ただ、薩摩の大方の者は勝利したと感じており、幕府をはじめ世間でもそうした風聞が広まっていたことから、藩の上層部は、表だつて賠償金を支払うわけにはいかず、苦心の末、薩摩藩の支藩である佐土原藩（宮崎）を仲介して支払う形をとつたのである。

佐土原藩は、家老の榊山舎人と用人の能勢二郎左衛門がこの任にあつた。

薩摩は、イギリス艦隊を撃退したとはいえ、集成館や主力砲台は壊滅状態

和陸談判は、横浜イギリス公使館にて3回行われ、第1回目は重野が

大名行列を乱したイギリス人の非礼を問い、犯人は逃亡して行方不明と主張

張また、開戦になったのは、イギリスが薩摩の3隻の商船を拿捕する手段に出たからだ

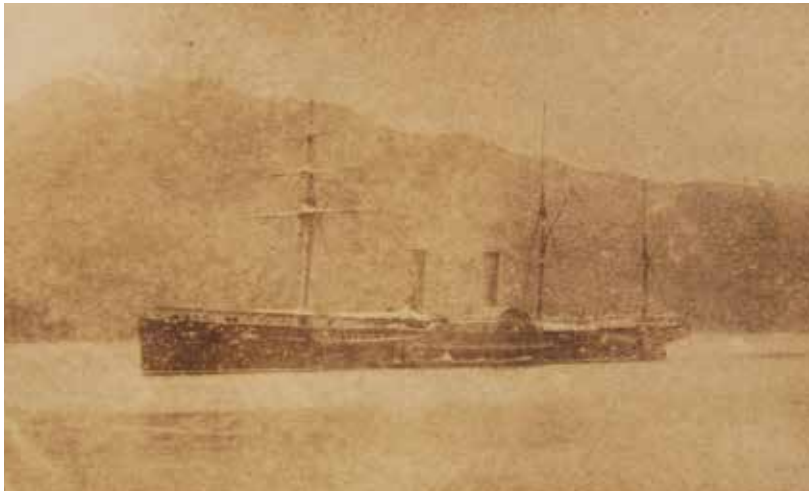
と非難、イギリス側は、あくまでも殺傷犯人の引き渡しと処刑、及び賠償金支払いの2点を強行に主張し、互いに譲らず平行線をたどつた。

第2回目は5日後で、前回同様双方非難の応酬が始まり、重野は、イギリスがあくまでも賠償を迫るなら、薩摩も、イギリスが薩摩の3隻の商船を拿捕して焼いたことに対し、賠償を要求する権利があると主張、ニールは、それは実質的な拒絶だと激怒し、再攻撃も辞さないといきまいて交渉はまた決裂した。

薩摩があらゆる方法で引き延ばし

をするため、ニールは、明日もう1度だけ最後の交渉を行うと通告、翌日は再戦を懸念し、妥協するよう薩摩に強く要請したため、薩摩も急きよ賠償に応ずることとし、軍艦の譲渡と操船技術指導を条件として提示した。ニールは薩摩が態度を一変し、賠償金支払いに応じたことを喜ぶとともに、軍艦譲渡の要求に驚き、「この軍艦を譲ることは、兵士を売ることと同じなのでできないが、購入の斡旋はする」と約束、交渉は妥結した。また、犯人引き渡しは、「逮捕でき次第行う」と書面に認めることで決着、イギリス側も譲歩した。薩英戦争の発端となつた、生麦事件発生からおよそ1年あまりが経過してやっと解決したのである。

薩摩は、賠償金10万ドルを幕府から借用して支払つたが、その後、返済



春日丸写真(尚古集成館蔵)

薩英戦争後の慶応3(1867)年に薩摩藩が購入した軍艦

したという記録はどこにも残っていない。
 この薩英戦争の和睦交渉が、後に薩摩が洋学所として元治元(1864)年に開設する「開成所」や、慶応元年(1865)年の「薩摩藩英国留学生」の派遣へとつながり、薩摩とイギリスは急速に接近し、親密な友好関係が構築されていくのである。
 今年は、「開成所」の開設からちょうど150周年を迎えている。



開成所蔵書目録(尚古集成館蔵)

開成所は、元治元(1864)年に薩摩藩が開設した洋学校。教授科目は陸海軍砲術・兵法・天文・地理・数学・航海・造船・物理・医学など多岐にわたった。当初は蘭学主体であったが、やがて前島密(郵便制度を築いた人)やジョン万次郎ら英学者が招かれ、英学が盛んに講義された

これまで3回にわたり「薩英戦争秘話」を紹介してきました。お読みいただきありがとうございます。



薩摩藩英国留学生等の記念碑

ロンドンのユニバーシティ・カレッジ・オブ・ロンドン(UCL)の中庭にある



薩英戦争記念銘板

横浜開港資料館旧館(旧英国総領事館)にあり、薩英戦争で犠牲になった英国の将兵を記念している